

福岡県居住者の暮らし向きと 消費税率引き上げに関する意識調査 結果報告書

2013年4月
株式会社ジーコム 生活行動研究所

1. 調査方法

弊社アンケートモニター「コムネット」に対するインターネット調査

2. 調査対象

福岡県在住の20歳以上の男女

3. 調査時期

平成24年4月12日(金)～4月16日(火)

4. 調査規模

526サンプル

【標本構成】

■性	件数	構成比(%)
男性	246	46.8
女性	280	53.2
全体	526	100.0

■年代	件数	構成比(%)
10・20代	100	19.0
30代	100	19.0
40代	116	22.1
50代	119	22.6
60代以上	91	17.3
全体	526	100.0

■職業	件数	構成比(%)
会社員	163	31.0
公務員	24	4.6
団体職員	11	2.1
会社役員	11	2.1
派遣社員・契約社員	26	4.9
商工自営	23	4.4
農林漁業	2	0.4
自営手伝い	5	1.0
医師・弁護士・税理士等	7	1.3
学生	17	3.2
パート・アルバイト	69	13.1
主婦専業	114	21.7
無職	42	8.0
その他	12	2.3
全体	526	100.0

■未既婚・子ども有無	件数	構成比(%)
未婚で一人暮らし	53	10.1
未婚で家族と同居	78	14.8
既婚で子どもなし	70	13.3
既婚・扶養する子ども有	213	40.5
既婚・子育て終了	112	21.3
全体	526	100.0

■居住地	件数	構成比(%)
福岡都市圏	373	70.9
その他の福岡県内	153	29.1
全体	526	100.0

■世帯年収	件数	構成比(%)
200万円未満	61	12.0
200～300万円未満	76	14.9
300～400万円未満	77	15.1
400～500万円未満	80	15.7
500～600万円未満	64	12.6
600～700万円未満	42	8.3
700～800万円未満	35	6.9
800～900万円未満	23	4.5
900～1000万円未満	21	4.1
1000～1500万円未満	28	5.5
1500万円以上	2	0.4
全体	509	100.0

* 世帯年収は学生を除く

【報告書の見方】

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

「自分の暮らし向き」について変化はないが、「世の中の景気」については楽観的な見方が大幅に増加。

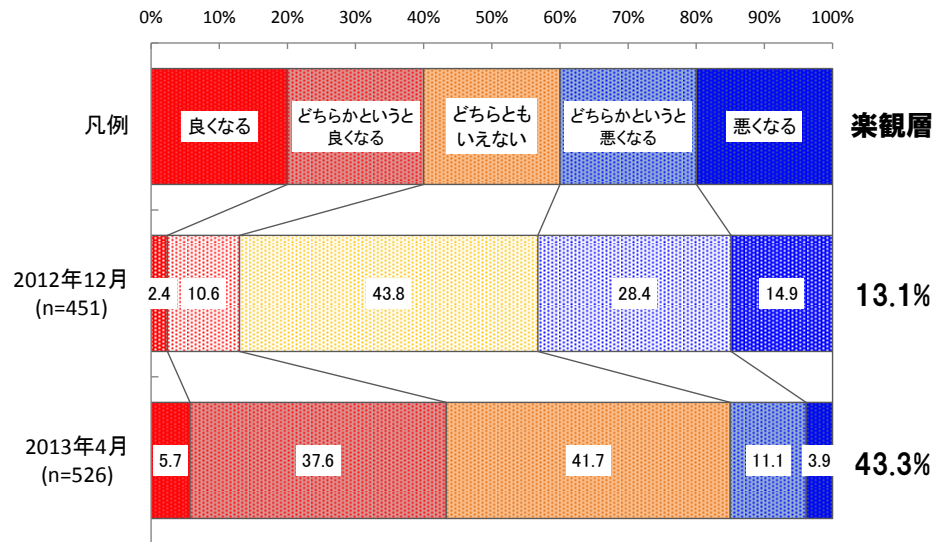
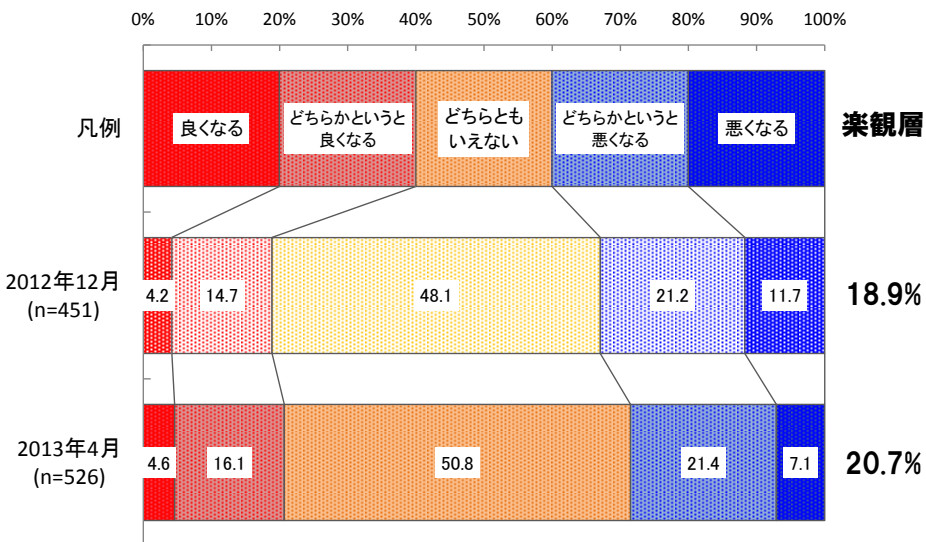
今年の【自分自身の暮らし向き】について、「良くなる」「どちらかというと良くなる」を合わせた楽観層は20.7%、「悪くなる」「どちらかというと悪くなる」を合わせた悲観層は28.5%で、楽観層よりも悲観層の割合のほうが高い。政権交代前の昨年12月の結果と比べて大きな違いは見られない。

一方、今年の【世の中の景気】については、楽観層43.3%、悲観層が15.0%で、楽観層が悲観層を大きく上回った。昨年12月時点に比べて、楽観層が大幅に増加している。

- ・性別では、自分自身の暮らし向きでは大きな違いは見られないが、世の中の景気については男性は女性に比べて楽観層の割合が高い。
- ・年代別では、自分自身の暮らし向きについて20代は他の年代に比べて楽観層の割合が高くなっている。
- ・世帯年収別で大きな違いは見られない。

◆2013年の自分自身の暮らし向き予測【各単一回答】

◆2013年の世の中の景気予測【各単一回答】



* 楽観層 = 「良くなる」と「どちらかというと良くなる」の合計値

◆2013年の自分自身の暮らし向き予測【単一回答】

		調査数	【%】				【%】		
			良くなる	どちらかという と良くなる	どちらかとい えない	ど ちらかとい うと悪 くなる	悪くなる	楽 観 層	悲 観 層
全体		526	4.6	16.1	50.8	21.4	7.1	20.7	28.5
性別	男性	246	4.9	20.1	45.5	21.7	7.8	25.0	29.5
	女性	280	4.4	12.7	55.4	21.0	6.5	17.1	27.5
年代別	20代	100	11.0	23.0	53.0	10.0	3.0	34.0	13.0
	30代	100	3.4	15.7	56.4	19.1	5.5	19.1	24.6
	40代	116	5.8	15.6	47.1	22.6	8.9	21.4	31.5
	50代	119	1.8	14.4	52.3	22.7	8.8	16.2	31.5
	60代以上	91	1.1	12.1	45.1	33.0	8.8	13.2	41.8
世帯年収別	300万円未満	137	1.5	15.6	53.1	21.7	8.0	17.1	29.7
	300～500万円未満	157	7.2	11.7	51.9	22.0	7.3	18.9	29.3
	500～700万円未満	106	3.5	18.0	51.4	21.8	5.4	21.5	27.2
	700～900万円未満	58	5.1	18.3	45.6	23.0	8.0	23.4	31.0
	900万円以上	51	4.4	20.4	49.7	20.5	5.0	24.8	25.5

◆2013年の世の中の景気予測【単一回答】

		調査数	【%】				【%】		
			良くなる	どちらかという と良くなる	どちらかとい えない	ど ちらかとい うと悪 くなる	悪くなる	楽 観 層	悲 観 層
全体		526	5.7	37.6	41.7	11.1	3.9	43.3	15.0
性別	男性	246	6.9	44.3	34.0	9.8	4.9	51.2	14.7
	女性	280	4.6	31.6	48.5	12.2	3.1	36.2	15.3
年代別	20代	100	5.0	42.0	41.0	8.0	4.0	47.0	12.0
	30代	100	2.2	39.6	42.4	12.6	3.2	41.8	15.8
	40代	116	6.7	35.5	39.9	11.2	6.8	42.2	18.0
	50代	119	8.3	36.9	39.4	13.3	2.2	45.2	15.5
	60代以上	91	5.5	34.1	47.3	9.9	3.3	39.6	13.2
世帯年収別	300万円未満	137	5.2	34.0	44.9	9.9	6.0	39.2	15.9
	300～500万円未満	157	2.8	39.1	42.4	11.1	4.5	41.9	15.6
	500～700万円未満	106	7.8	38.8	38.0	12.5	2.9	46.6	15.4
	700～900万円未満	58	6.8	40.3	40.3	11.5	0.9	47.1	12.4
	900万円以上	51	8.1	37.9	36.5	14.3	3.2	46.0	17.5

* 楽観層 = 「良くなる」と「やや良くなる」の合計値
 悲観層 = 「悪くなる」と「どちらかという悪くなる」の合計値

1. 暮らし向きと景気の予測

◆2013年の自分自身の暮らし向き予測についての回答理由（主なものを抜粋）

自分自身の暮らし向き	理由	性別	年代	世帯年収
良くなる	アベノミクスにより株価上昇、株取引にて利益確保する事により若干余裕が出来るので物を買う事が出来る	男性	50代	500～600万円未満
良くなる	最近、自身のサイドのヒモが緩んできたように感じる	男性	60代以上	200万円未満
良くなる	収入が上がったから	女性	20代	300～400万円未満
良くなる	主人の仕事が、うまくいきそうな兆しを感じるので	女性	40代	300～400万円未満
どちらかという良くなる	社会人になり、所得が増えるため	男性	20代	200万円未満
どちらかという良くなる	着実に仕事量が増えているため	男性	30代	300～400万円未満
どちらかという良くなる	長年塩漬けだった株式の売却で利益が出そう。住宅ローンの返済に充てることができる	男性	30代	600～700万円未満
どちらかという良くなる	両親の面倒を見るようになると精神的にはきつい、同居によって家賃がいらす、貯蓄や趣味に回せるから	男性	60代以上	200～300万円未満
どちらかという良くなる	会社の賞与が上がるみたいなので	女性	20代	500～600万円未満
どちらかという良くなる	すでに投資での利益も出ているから	女性	40代	1000～1500万円未満
どちらかという良くなる	円安で投信や株の値上がり期待でき、利益が上がそうだから	女性	50代	600～700万円未満
どちらともいえない	アベノミクスと言ってもそう簡単には反映されないはず	男性	20代	400～500万円未満
どちらともいえない	全般的には上向きであろうと思うが、末端の国民全員が良くなるわけではない	男性	50代	300～400万円未満
どちらともいえない	年金生活なので、あまり暮らし向きに変化がないと思われるので	男性	60代以上	200～300万円未満
どちらともいえない	給料が上がる予定はなく、電気代や物価の上昇で消費が増える	女性	30代	200～300万円未満
どちらともいえない	株価が上がっても賃金が上がるわけではない	女性	40代	800～900万円未満
どちらともいえない	仕事面では順調だが、子供2人が同時に大学生なので、いろいろとお金がかかる	女性	40代	400～500万円未満
どちらともいえない	給料が上がらないのに物価はどんどん上がっていく。支出が増えていくので蓄えができない	女性	50代	800～900万円未満
どちらかという悪くなる	消費税もあがるし、電気代やガソリンの高騰が不安です	男性	20代	200万円未満
どちらかという悪くなる	物価や消費税は上がるが、収入が上がる見込みがないから	男性	30代	200～300万円未満
どちらかという悪くなる	給料は下がるのに、こども達の教育費とかかかるので	男性	40代	400～500万円未満
どちらかという悪くなる	勤務先会社の業績悪化	男性	50代	1000～1500万円未満
どちらかという悪くなる	年金生活のため収入は増えないが、脱デフレ政策で物価がどんどん上昇し、生活は苦しくなる	男性	60代以上	200～300万円未満
どちらかという悪くなる	今年大学を卒業して、現在フリーターで固定した職に就いていないから	女性	20代	200万円未満
どちらかという悪くなる	物価が上がっても給料は下がる一方	女性	30代	300～400万円未満
どちらかという悪くなる	主人の会社は零細企業で、なかなか厳しい状態のようなので	女性	50代	500～600万円未満
どちらかという悪くなる	年金は減る一方で物価は上がるなら、苦しくなるのが当然	女性	60代以上	500～600万円未満
悪くなる	給与が安い	男性	40代	300～400万円未満
悪くなる	収入が数年にわたって下がり続け、回復する見込みがない	男性	50代	500～600万円未満
悪くなる	収入があっても税金を引かれ過ぎてバカらしい	女性	20代	300～400万円未満
悪くなる	良くなるのは上層部のみ、庶民には関係ない	女性	40代	200万円未満
悪くなる	給料は上がらないのに物価が上昇傾向。教育費がかかる時期なので家計は大変です	女性	40代	400～500万円未満
悪くなる	近いうちに失業するから	女性	50代	300～400万円未満
悪くなる	年金生活者にとって、公共料金等の値上げが生活にひびき、また円安の影響で、生活物資等の価格値上げも必至で、今後、生活にシワ寄せが出てくるのは明らかである	女性	60代以上	200～300万円未満

1. 暮らし向きと景気の予測

◆2013年の世の中の景気予測についての回答理由（主なものを抜粋）

世の中の景気	理由	性別	年代	世帯年収
良くなる	日経平均がどんどん上昇しているため	男性	20代	200万円未満
良くなる	アベノミクスでしばらくは好景気が続くと思うから	男性	50代	800～900万円未満
良くなる	ニュースなどで景気について明るい話題を聞くから	女性	20代	200万円未満
良くなる	安部首相、日本の企業、日銀が頑張ってくれそう	女性	40代	300～400万円未満
良くなる	自民に変わり、安部総理や日銀総裁の対策で経済界や投資家が潤ってきていると思われる	女性	50代	500～600万円未満
良くなる	株価が上がっており、消費意欲が向上しているから	女性	60代以上	200～300万円未満
どちらかという良くなる	株価上昇により上場企業の経済活動が活発になると見込めるから	男性	20代	200～300万円未満
どちらかという良くなる	賃上げ等の明るいニュースも徐々に出てきており、世の中のイメージが明るくなると同時に消費も活発化すると思うから	男性	30代	600～700万円未満
どちらかという良くなる	アベノミクス効果で富裕層などお金に余裕がある人たちがお金を使い出した	男性	40代	1000～1500万円未満
どちらかという良くなる	株価上昇、円安により、企業の業況が好転し、世の中の景気は良くなりそう	男性	50代	500～600万円未満
どちらかという良くなる	ニュースなどを見ていると景気が上向きになりそうな雰囲気なので、世の中の景気が良くなるような気がすると思うことが多いです	女性	20代	200～300万円未満
どちらかという良くなる	ニュースを見ていると、大企業は良い方向へ向かっているみたいだと思ったから	女性	30代	400～500万円未満
どちらかという良くなる	実際に収入アップや株価アップの恩恵を受けている人がいるので	女性	40代	400～500万円未満
どちらかという良くなる	アベノミクスとやらで経済が動き出しているのは実感するから	女性	50代	300～400万円未満
どちらかという良くなる	アベノミクスで気分的に良い方向にいつてる気がする	女性	60代以上	600～700万円未満
どちらともいえない	将来への不安の多い人が消費を抑える傾向にあるから	男性	20代	300～400万円未満
どちらともいえない	テレビなどの報道では景気が上向きなどというが、周りの人たちにそういう雰囲気はないから	男性	30代	400～500万円未満
どちらともいえない	景気は、マスコミ報道だけが先行して、実感がない	男性	50代	200万円未満
どちらともいえない	私の住んでいるところは、世の中の景気の動きに取り残されている	男性	60代以上	900～1000万円未満
どちらともいえない	最近世界でいろいろなことが起こっていて全く今後が想像出来ない	女性	20代	200万円未満
どちらともいえない	アベノミクスで少し上向きにはなっているが、一時的なものと思う消費税も上がるので	女性	30代	200～300万円未満
どちらかという悪くなる	高齢者にかかる税金が増えるから	男性	40代	900～1000万円未満
どちらかという悪くなる	値上げが先行し、給料が上がらないから	男性	50代	500～600万円未満
どちらかという悪くなる	新卒の就業率低下、リストラ策増、若者の無年金、格差拡大	男性	60代以上	200万円未満
悪くなる	政府のやり方は一時的なものなので、長期的な景気回復になるとは思えない	男性	20代	200万円未満
どちらかという悪くなる	ショッピングに行っても買ってるのは安いのだけっていう人が多いから	女性	20代	300～400万円未満
どちらかという悪くなる	消費税もいずれ上がるようで、何に関しても良くなる期待は持てない	女性	30代	200万円未満
どちらかという悪くなる	実体経済が見えてこないから	女性	50代	700～800万円未満
どちらかという悪くなる	公共料金も上がるし、消費税も上がるから	女性	60代以上	300～400万円未満
悪くなる	大企業では賃金の上昇はあるかもしれないが、中小企業ではあり得ないし、現在でも景気の前取り意識が強すぎて、実際の景気回復とは合致してない	男性	50代	300～400万円未満
悪くなる	税金増、物価上昇	女性	40代	600～700万円未満
悪くなる	所得が増えないのに、デフレが終わり商品価格が上昇しそうだから	女性	40代	900～1000万円未満
悪くなる	低所得者には景気の良さは感じられない	女性	50代	200万円未満

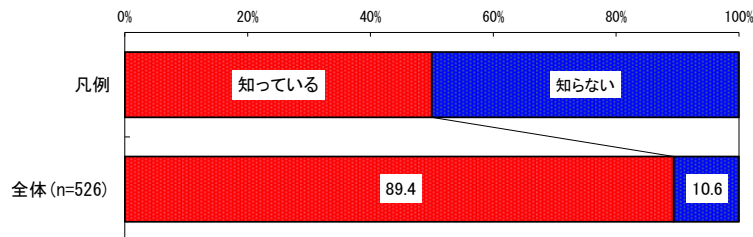
2. 消費税率引き上げの認知

引き上げ税率についての認知度は約9割だが、引き上げ時期の認知度は75%程度。

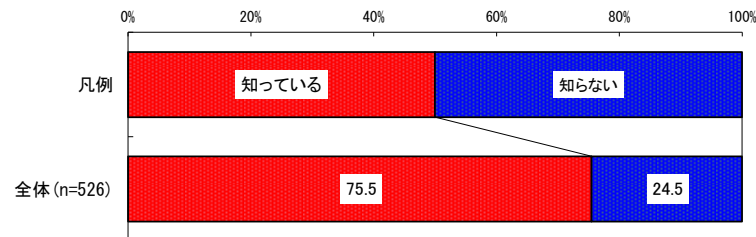
消費税率の引き上げに関する認知度は、「税率が5%から8%へ上がること」89.4%、「引き上げ時期は来年の4月であること」75.5%である。

- ・性別で見ると、男性は女性に比べて「引き上げ時期は来年の4月であること」の認知度が高い。
- ・年代別で大きな違いは見られないが、いずれの項目も20代の認知度が最も低くなっている。
- ・世帯年収別で大きな違いは見られないが、いずれも300万円未満の層の認知度が最も低い。

◆消費税率が5%から8%へ上がることの認知【単一回答】



◆消費税の引き上げ時期が来年4月であることの認知【単一回答】



		調査数	知っている (%)	知らない (%)
全体		526	89.4	10.6
性別	男性	246	92.7	7.3
	女性	280	86.6	13.4
年代別	20代	100	83.0	17.0
	30代	100	87.7	12.3
	40代	116	89.0	11.0
	50代	119	93.6	6.4
	60代以上	91	93.4	6.6
世帯年収別	300万円未満	137	85.8	14.2
	300～500万円未満	157	91.1	8.9
	500～700万円未満	106	92.4	7.6
	700～900万円未満	58	93.6	6.4
	900万円以上	51	89.5	10.5

		調査数	知っている (%)	知らない (%)
全体		526	75.5	24.5
性別	男性	246	82.4	17.6
	女性	280	69.4	30.6
年代別	20代	100	62.0	38.0
	30代	100	71.2	28.8
	40代	116	81.5	18.5
	50代	119	78.4	21.6
	60代以上	91	83.5	16.5
世帯年収別	300万円未満	137	69.1	30.9
	300～500万円未満	157	72.7	27.3
	500～700万円未満	106	82.5	17.5
	700～900万円未満	58	83.5	16.5
	900万円以上	51	79.4	20.6

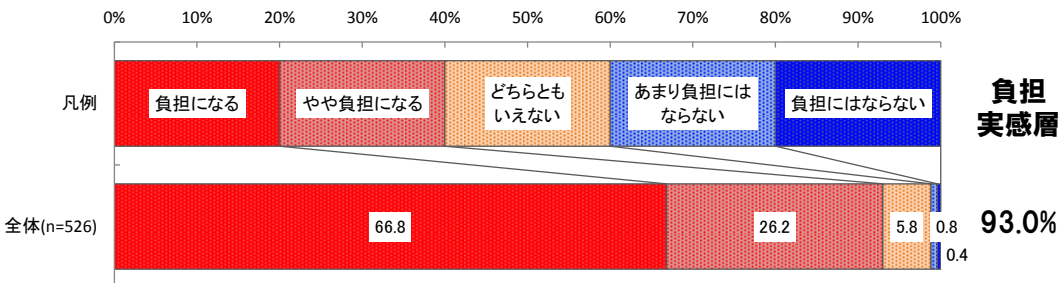
3. 消費税率引き上げによる負担感

消費税率引き上げにより経済的な負担を感じる層は9割を超える。

消費税率引き上げが自分自身にとって「負担になる」と回答した割合は66.8%、「やや負担になる」は26.2%で、これらを合わせた負担実感層は93.0%であった。

- ・性別、年代別では大きな違いは見られない。
- ・世帯年収別で、負担実感層の割合に大きな違いは見られないが、「負担になる」だけで見ると900万円以上は900万円未満に比べて割合が低い。

◆消費税率の引き上げによる経済的負担感【単一回答】



	調査数	【%】					【%】
		負担になる	やや負担になる	どちらともいえない	あまり負担にはならない	負担にはならない	負担実感層
全体	526	66.8	26.2	5.8	0.8	0.4	93.0
性別							
男性	246	65.6	25.0	8.2	0.8	0.4	90.6
女性	280	67.8	27.3	3.7	0.8	0.4	95.1
年代別							
20代	100	60.0	28.0	12.0	-	-	88.0
30代	100	67.3	25.6	3.9	2.2	1.1	92.9
40代	116	71.2	23.1	3.5	1.3	0.9	94.3
50代	119	64.2	30.0	5.4	0.5	-	94.2
60代以上	91	71.4	24.2	4.4	-	-	95.6
世帯年収別							
300万円未満	137	71.9	19.1	8.6	0.4	-	91.0
300～500万円未満	157	71.5	24.8	3.3	0.4	-	96.3
500～700万円未満	106	65.6	28.9	5.0	0.5	-	94.5
700～900万円未満	58	64.8	30.8	2.7	1.8	-	95.6
900万円以上	51	51.8	33.9	7.0	3.1	4.2	85.7

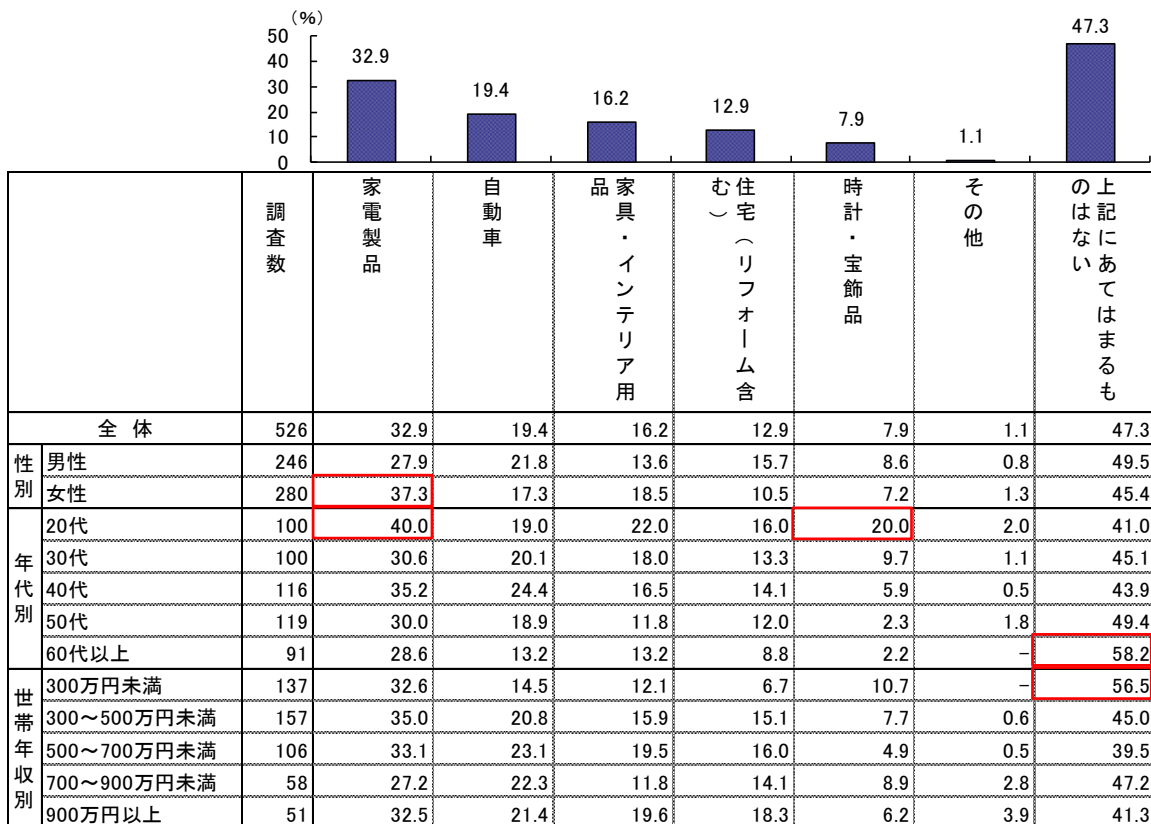
* 負担実感層 = 「負担になる」と「やや負担になる」の合計値

税率引き上げ前に購入したいもののトップは「家電製品」だが、「自動車」「家具」「住宅」も1割を超えている。

消費税率引き上げ前に購入したいものは、「家電製品」の割合が32.9%で最も高く、次いで「自動車」19.4%、「家具・インテリア用品」16.2%の順であるが、「住宅」も12.9%に及ぶ。一方で、「あてはまるものはない」の割合も47.3%にのぼる。

- ・性別で見ると、女性は男性に比べて「家電製品」の割合が高い。
- ・年代別では、20代は他の年代に比べて「家電製品」「時計・宝飾品」の割合が高い。また、60代以上は「あてはまるものはない」の割合が高くなっている。
- ・世帯年収別では、300万円未満は他の年代に比べて「あてはまるものはない」の割合が高い。

◆消費税率引き上げ前に購入したいもの【複数回答】

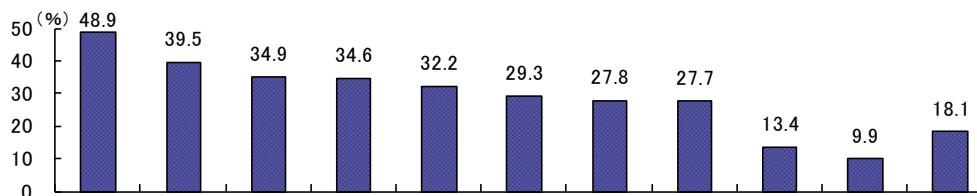


税率引き上げ後の支出抑制意向が強いのは「外食費」。女性は全体的に支出抑制意向が強い。

消費税率引き上げ後に支出を抑えたいものは、「外食費」の割合が48.9%で最も高く、次いで「水光熱費」39.5%、「ファッション関連」34.9%、「食費（外食を除く）」34.6%、「旅行・レジャー」32.2%の順である。

- ・性別で見ると、全体的に女性は男性に比べて抑制意向が強く、特に「水光熱費」「ファッション関連」「食費（外食を除く）」「生活雑貨」「スキンケア用品・化粧品」の割合が高い。
- ・年代別では、また、40代以上は「水光熱費」「旅行・レジャー」、50代は「趣味・娯楽関連」、50代以上は「生活雑貨」の割合が高くなっている。一方、全体的に20代は他の年代に比べて支出抑制意向が弱い。
- ・世帯年収別では、世帯年収が下がるにつれて「食費（外食を除く）」の割合が高くなっている。

◆消費税率引き上げ後に支出を抑えたいもの
【複数回答】



		調査数	外食費	水光熱費	ファッション関連	食費（外食を除く）	旅行・レジャー	生活雑貨	通信費	趣味・娯楽関連	化粧品	スキンケア用品・化粧品	習い事	その他
全体		526	48.9	39.5	34.9	34.6	32.2	29.3	27.8	27.7	13.4	9.9	18.1	
性別	男性	246	45.5	34.0	27.9	29.5	30.8	22.5	25.0	29.5	6.5	9.0	24.6	
	女性	280	51.8	44.3	41.1	39.2	33.4	35.3	30.2	26.0	19.4	10.6	12.5	
年代別	20代	100	36.0	26.0	29.0	35.0	19.0	18.0	15.0	27.0	7.0	6.0	26.0	
	30代	100	47.5	37.2	30.7	35.2	27.1	23.6	29.6	18.9	9.4	6.0	16.3	
	40代	116	57.2	45.9	39.1	32.4	36.4	27.9	32.7	27.8	15.0	9.2	16.0	
	50代	119	50.5	43.0	39.0	38.2	38.6	38.9	34.2	36.3	18.2	14.4	18.2	
	60代以上	91	51.6	44.0	35.2	31.9	38.5	37.4	25.3	26.4	16.5	13.2	14.3	
世帯年収別	300万円未満	137	49.1	38.5	38.5	48.7	34.2	30.2	29.5	31.9	15.3	14.7	17.5	
	300～500万円未満	157	52.0	43.8	34.5	35.2	32.7	32.7	30.3	24.6	12.8	9.0	10.7	
	500～700万円未満	106	46.0	39.9	37.4	28.9	28.6	26.3	22.3	25.7	12.3	4.9	23.6	
	700～900万円未満	58	55.3	29.7	25.7	25.2	30.8	24.8	27.5	31.7	13.1	9.0	15.9	
	900万円以上	51	44.0	45.0	37.8	21.3	38.5	30.6	33.2	30.0	15.2	13.7	30.2	

発行元：株式会社ジーコム 生活行動研究所

福岡市博多区古門戸町2番4号 KSコモンドビル4F

TEL 092-283-2085

FAX 092-262-6110

URL : <http://www.gcom-net.co.jp/>

E-mail : info@gcom-net.co.jp